

委 員 会 行 政 調 査 報 告 書

令和 5 年 8 月 2 日

尾張旭市議会議長 殿

都市環境委員長

安田 吉宏

本委員会は所管事務調査のため下記のとおり行政調査を行いましたので、報告します。

| 期 日 等 | 期 日 | 調 査 先 |
|--------------------------------------|---|-------------|
| | 令和 5 年 7 月 3 1 日 | 福井県永平寺町 |
| | 令和 5 年 8 月 1 日 | 長野県上田市 |
| 参 加 者 | 計 6 名 安田吉宏、川村つよし、芦原美佳子、勝股修二、さかえ章演、 早川八郎 | |
| 調 査 項 目 及 び 内 容 | ○福井県永平寺町 「レベル 4 自動運転移動サービスについて」 ○長野県上田市 「広域シェアサイクル社会実験について」 (行政調査の成果等は別紙にて報告) | |
| そ の 他 | (1) 参考資料は別添のとおり | |

都市環境委員会行政調査報告書

委員長 安田 吉宏

【福井県永平寺町行政調査】

令和5年7月31日

「レベル4自動運転移動サービスについて」

1 行政調査の目的

福井県永平寺町では、2023年5月よりレベル4の自動運転による、移動サービスを開始した。この技術は、新しい時代の安全な移動手段や地域活性化のツールとして期待されるものである。

そこで、「レベル4自動運転移動サービスについて」の取組について調査を実施した。

2 導入の経緯について

2002年に京福電気鉄道永平寺線が廃線となり、大本山永平寺までの移動手段を失い不便となり、賑やかさがなくなった。住民の移動手段としての安全な移動手段と地域活性化の期待し、2018年4月から自動運転の実証運行を開始した。その後、2020年12月にレベル2、2021年3月にレベル3の運用を開始し、2023年5月には、レベル4の自動運転移動サービスを実現した。

3 管理・運営について

- ・自家用有償旅客運送の制度により、まちづくり株式会社 ZEN コネク
トが運行を行う
- ・運行区間約2km（京福電気鉄道永平寺線の廃線跡地 荒谷～志比）
- ・遠隔運転手1人に対して3台の車両の運行
- ・特定自動運行用車両：グリーンスローモビリティ（白ナンバー）
4台
- ・運行速度：12km/h以下
- ・利用料金 大人：100円、中学生以下：50円、未就学児：無料
- ・利用人数 40～50人/日（レベル3実施時 10人/日）
- ・車両自体が国の所有となっているため、収支バランスに関しては把
握していない

4 課題について

- ・生活の中の移動手段としては使いにくく、観光目的となっている
- ・一般車両が通る道路との交差

5 行政調査の成果

永平寺町の取組は、先進事例であり、本市においても新たな交通手段のひとつとして、将来、選択肢となり得る。



【長野県上田市行政調査】

令和5年8月1日

「広域シェアサイクル社会実験について」

1 行政調査の目的

長野県上田市では、令和3年度から千曲市と連携して3年間にわたる「広域シェアサイクル」について社会実験を実施している。

導入経緯や目的等について調査した。

2 導入の経緯について

平成22年から令和2年途中まで、上田駅周辺の「放置自転車」の有効活用施策として、無料の「まちなかレンタサイクル」を実施した。平成28年の大河ドラマ「真田丸」の影響もあり、順調に運営していたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、利用者が減少し、令和2年3月下旬からこの事業を休止した。

その後、行政体制の変化や貸自転車に対するニーズもあり、千曲市においてもシェアサイクル事業の導入を検討していたことから、「上田市・千曲市広域シェアサイクル社会実験」に至った。

3 管理・運営について

- ・事業主体：上田地域シェアサイクル活用推進協議会
(上田商工会議所、上田商工会議所建設業部会、上田市商店会連合会、一般社団法人信州上田観光協会、JR東日本株式会社上田駅、しなの鉄道株式会社、上田電鉄株式会社、信州地域デザインセンター、上田地域振興局商工観光課、上田警察署交通課、上田市<DX推進課、文化政策課、環境政策課、商工課、観光シティプロモーション課、交通政策課、都市計画課>)
- ・自転車（電動アシスト付き3段変速）45台
キャリア：株式会社ドコモ・バイクシェア
サイクルポート：15か所
航続距離：72km（標準時）
充電時間：半日程度
- ・料金 1回会員：110円/30分 月額会員：1,650円/月 110円/30分（最初の30分無料）他
- ・会員登録数1,406人（上田市人口：152,973人<R5.7.1現在>）
- ・サイクルポートにある自転車数は、アプリで確認でき、30分前に予約できる。
- ・6か所のサイクルポートでは、非接触による充電システムを導入している。（2か所で太陽光発電を活用し、ゼロカーボンを推進 そのうち1か所は地面舗装型パネルを設置）
- ・利用者のうち、上田・千曲広域での登録者の利用が約75%であり、地域住民の利用が多い。順調に利用者数は伸びている。
- ・GPS機能を活用することで、自転車道の整備やサイクルポートの整

備の参考としている。

- ・デジタルコミュニティ通貨「もん」と連携している。
- ・上田染谷丘高校と様々な分野でタイアップしている。
- ・後輪部のドレスガードを活用し、協力企業等のロゴを掲出している。
(7社：年間30万円)

4 課題について

- ・採算性（総事業費に占める事業収入は2割程度<上田市>）
導入費用
維持費用（自転車の再配置等）
- ・サイクルポート
視認性のある場所への配置
公有地に設置する際には許可が出るまで時間がかかる
(民間の商業施設との交渉は順調)
- ・民間主導への移行
- ・自転車道の整備と交通安全

5 行政調査の成果

観光資源が豊かな上田市であるが、シェアサイクルの利用者が地域住民の割合が多いことにヒントがあると考えます。上田市は、「まちの活性化、観光振興、二次交通の補完、スマートシティ、ゼロカーボン、健康増進、SDGs」をキーワードにシェアサイクル事業を、単なる移動手段の提供だけでなく、地域が抱える諸課題の解決に寄与するような事業にすることを目標としています。

本市においては、新たな移動手段の創出は課題となっており、上田市の取組を参考に、交通インフラの充実をはじめ、本市の更なる発展に取り組んでいきたい。

